



第22回

ボランティア研修会 ……救急講習に参加して……

理事 岡 俊一



二月二十七日ウエルとばた八階会議室におきまして、第二十二回ボランティア研修会を開催しました。今回は平成十四年六月以来の救急講習を行いました。前回は参加された方、まったく初めての方、総勢三〇名が参加くださいました。北九州市消防局から三人の講師においでいただき、初めに、止血・やけど・誤飲などの処置方法を伺いました。そのあとの人形を使った実習では、気道の確保、人工呼吸、心臓マッサージを、三班に分かれて全員が行ないました。何度も繰り返しての説明を聞いた時点では、簡単に理解したつもりでしたが、いざ行なうとなると、まったく思うようにいきません。

人工呼吸では空気がうまい具合に送り込まれず、ますます焦ってしまいました。

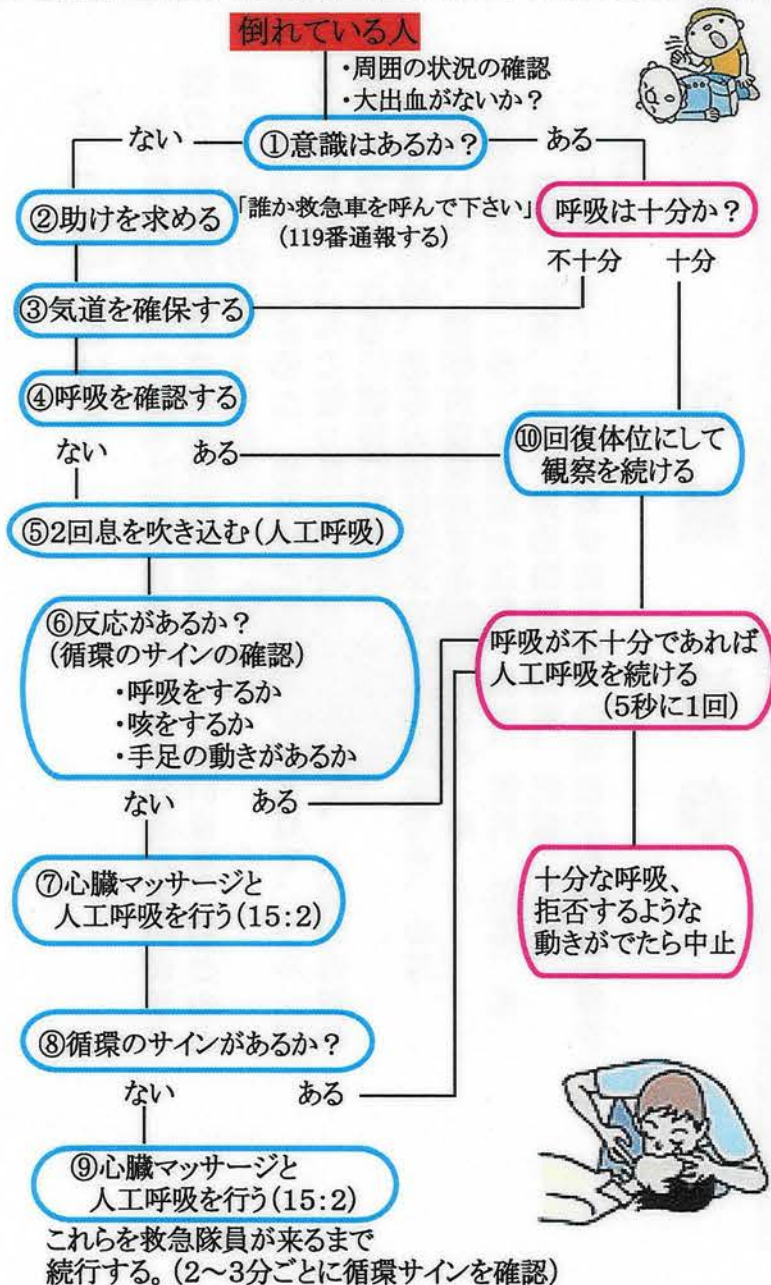


応急処置の方法は、より良いものを求め常に変化しているものです。そのため二年に一度は講習を受けたほうが良いとのことでした。そういえば二十年前位前に受講したときは「心臓マッサージは折れそうな骨が折れてもいいので強く押し込むように」と習った記憶があります。でも今回習ったのは、「強く押しすぎると、折れた骨が臓器を傷つけるので、3〜5cm位押し」と教えていただきました。

緊急事態に遭遇したときに落ち着いて行動できるかどうかが一番不安ですが、知っているのと知らないのでは大きな違いだと思います。

今後も研修会では定期的に応急処置の講習を取り入れたいと思いますので、多くの方に参加していただき、緊急時に備えて最低限の知識を身に付けてください。

心肺蘇生法【心肺蘇生法は下記の手順で行われます】



今回で二度目の救急講習は、戸畑消防署・警防課きつてのイケメントリオ(?)の方々が、来てくださいました。救命に必要な応急手当の内「心肺蘇生法」を永嶋隊員、「気道異物(窒息)の除去」と、「大出血時の止血法」を山崎隊員が担当されました。お二人とも救急講習の講師の経験が浅いということで、渡邊隊長の厳しくも、面白いツッコミと、「さわやか」のボランティアさんのするどい質問に、思わず渡邊隊長に助け舟を求めるといった場面も・・・

病人役になったり、けが人役になったり、全身汗だくになって頑張っていたいただき、ありがとうございました。お蔭で楽しく有意義な講習会になりました。(事務局より)



山崎隊員



永嶋隊員



渡邊隊長

① どうしてこんな時代になったんだ

毎日のニュースを視ていると、人間としては考えられない事件の多発にびっくりさせられます。二〇世紀は、物質文明が花開いた時代でした。

列島改造からバブル経済、消費文化、国民の生活水準も西欧やアメリカ並みになりました。

科学も、宇宙のビックバンから、ナノ（一億分の一の）、DNA、世界まで、マキシマムからミニマムまで、解明が進みました。余りにも物質文明が進んだので、人間の「心」や義理・人情がないがしろにされてきたのではないのでしょうか？その事が、現在の乾燥しきった、干からびた世の中になった原因のように思えます。二一世紀は「人間回復」「心の回復」の世紀にしなければと痛切に思います。

随想

近頃痛切に感じること

【そのき】

紅頭 博幸

『心』は何処へ行つてしまつたんだ！

③ 「心」を亡くすとは……

一休禅師（一休さん）は、「思い入れば 人もわが身もよそならず 心のほかに 心なければ」と道歌を詠んでいます。「心」が一番大事だよ、と言う意味でしょうか。

肉体は頑強だが、精神を病んでしまったら、どうなるでしょうか。精神的障害（ストレス）が解消できず、「心」に残ると心的外傷（トラウマ）として残り、これが「心」の病気です。虚空をさまよう人生になります。

義理、人情や近所付き合いのない、人生になります。その行き着く所が信じられない事件に繋がっているのではないのでしょうか？まさに、生きながら精神的には死した状態です。本当に悲しいことです。「心療内科」「精神科」の病院は近頃だいたい充実してきました。でも、薬の投与で治るのは脳であって、「心」ではないような気がします。

② 「心」とは？

脳の研究は、一〇〇%に近い完成度で研究が進んでいます。脳の各部位がたずさわる役割も明確になっています。脳と心とはどう違うのでしょうか？

「広辞苑」によると、珍獣などの臓腑の姿を見て、コル（疑る）またはコルと言ったのが語源が。転じて、人間の内臓の通称となり、さらに精神に進んだ。

① 知識、感情、意志の総体② 思慮、思惑③ 気持ち、心持

④ 思いやり、情⑤ 情趣を解する感性⑥ 望み、志

※科学的には「心」の機能① 注意、認識、言語、思考、推論、意図、計画、自我、運動機能、知覚、記憶、決断、

（ニッケイ・サイエンス）科学的には一〇年前から研究に着手された。

「お医者さまでも 草津の湯でも恋の病は治りやせぬ」と、恋は「心」の病で、「心」に宿っているの、一番厄介です。山口百恵ちゃんの歌に、あなたに女の子の「一番大切なものをあげるわ 私の胸の奥に しまった 大切なものを あげるわ」とあります。

女の子の「一番大切なものは、胸の奥にある「心」なんです。具体的にしてみると、少し「心」がわかったような気がしませんか。

次回、第二弾

『心』なき医療
『心』ある医療
お楽しみに！